

CIRJE Newsletter

東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センターニュースレター

No.24

2016年4月

Center for
International Research on the
Japanese Economy (CIRJE)
Graduate School of Economics
Faculty of Economics
The University of Tokyo

研究会開催報告

当センターでは常時様々な研究会が開催されております。今号では2015年度に開催された4つの研究会の内容をお伝えいたします。

研究会開催報告 I

住宅政策研究会 ポストアベノミクスー住宅市場の将来ー

日時：2016年2月16日

会場：大学院経済学研究科学術交流棟・小島コンファレンスルーム

政策研究大学院大学

井堀利弘



本研究会では、3名の報告者より、ポストアベノミクスにおける住宅問題に関する報告がなされました。まず、福田慎一教授からは住宅金融によって、本来は住宅購入が困難であった層の住宅投資を喚起することの必要性が指摘され、住宅の流動性を高めることで、中古住宅の取引やそれを担保とした借入を活性化することの重要性についても指摘がありました。ついで、吉川洋教授から高齢化は、社会保障や財政、地域経済にとって大きなチャレンジであるが、その一方で、イノベーションの芽ともなりうるため、日本の経済社会は日本の企業にイノベーションの機会を提供しているとして、住宅に関連したイノベーションの重要性が指摘されました。最後に、林正義教授からは少子高齢化と人口減少の高進によって、50年後に労働人口が現在の約半分になり、非都市部の人口の減少、「自治体の消滅」や大幅な「地下の下落」が予測されている経済社会環境のなかで、日本が直面する税財政上の課題について、およびそれが住宅市場に及ぼす影響について指摘がありました。これら3教授の報告を踏まえて、出席者との間で、高齢化社会における住宅資産活用のあり方や住宅市場活性化の方策などについて、活発な意見交換が行われました。なお、2015年度まで10年間にわたって、住宅市場や住宅税制のあり方など住宅に関する総合的な研究を推進してきた住宅政策研究会も、この研究会で終了となりました。一般社団法人住宅生産団体連合会には10年という長きにわたって研究助成をいただき、東京大学大学院経済学研究科で多くの助成を受けた教員を代表して、厚く御礼申し上げます。



質疑応答



発表の様

CIRJE Newsletter

目次

研究会開催報告 I
住宅政策研究会
ポストアベノミクス
ー住宅市場の将来ー



研究会開催報告 II
第9回応用ミクロ計量
経済学に関する
アジアカンファレンス

研究会開催報告 III

The 11th joint conference of
Seoul National University
and University of Tokyo
Labor Market and Consumer
Issues in East Asia

研究会開催報告 IV

エコノメトリック・ソサエティ
サマーカンファレンス 2015



客員研究者



CIRJE
ディスカッションペーパー
シリーズ

客員スタッフ

スタッフ

研究会開催報告 II

第9回 応用マイクロ計量経済学に関するアジアカンファレンス

日時：2016年1月9,10日

会場：大学院経済学研究科学術交流棟・小島コンファレンスルーム

澤田康幸



一橋大学の川口大司教授とともに、2016年1月9日・10日に2015-16年度9th Asian Conference on Applied Micro-Economics/Econometricsを開催しました。本カンファレンスは、東アジア・東南アジアの中堅・若手応用マイクロ計量経済学者が開催している年次カンファレンスであり、例年活発な研究報告と討議が行われています。今回 CIRJE において開催された第9回のカンファレンスでは、以下の参加者が研究報告を行い、活発な議論が交わされました：Jinyoung Kim (Korea University)、Yoonsoo Park (Korea Development Institute)、川口大司(一橋大学)、重岡仁(Simon Fraser University)、Kamhon Kan (Academia Sinica)、松林哲也(大阪大学)・上田路子(Syracuse University)、Seung-Gyu Sim (東京大学)、Carl Sanders (Washington University in St.Louis)、Andrew Griffen (東京大学)、Eric Weese (Yale University)、Gordon B. Dahl (University of California San Diego)、澤田康幸(東京大学)、Yi Lu (National University of Singapore)、Jungmin Lee (Sogang University)、Menghan (Mandy) Shen (Columbia University)、Arthur Lewbel (Boston College)、Myoung-Jae Lee (Korea University)、市村英彦(東京大学)。



研究会の様様

研究会開催報告 III

25th NBER-TCER-CEPR Conference on International Finance in the Global Markets

日時：2015年12月16,17日

会場：東京大学経済学研究科・大会議室

福田慎一



Tokyo Center for Economic Research (TCER)-National Bureau of Economic Research (NBER)-Center for Economic Policy Research (CEPR) 共催「TRIO コンファレンス」が、2015年12月16日(水)と17日(木)の両日、東京大学経済学研究科棟で開催されました。本年度は、日本経済国際共同研究センター(CIRJE)が、金融教育研究センター(CARF)のサポートを受けて、ホストとなりました。テーマは「国際金融の新潮流」で、近年の国際金融情勢が世界経済にもたらす諸問題を多角的に議論しました。東京大学からは、福田慎一、青木浩介、植田健一、河合正弘らが報告者ないし討論者として参加しました。また、海外からの参加者には、Gianluca Benigno (London School of Economics)、Andrew Rose (University of California at Berkeley)、Charles Engel University of Wisconsin)、Vahagn Galstyan (Trinity College Dublin)、Fabio Ghironi (University of Washington)、松山公紀 (Northwestern University)、星岳雄 (Stanford University) らこの分野でのトップクラスの研究者が含まれ、大変意義深い議論が展開されました。

研究会開催報告 IV

エコノメトリック・ソサエティ サマーコンファレンス 2015

日時：2015年8月3-7日

会場：大学院経済学研究科学術交流棟・小島コンファレンスルーム

松井彰彦



2015年8月3日から7日までの5日間、国際サマースクールを開講しました。Invitation Onlyのクローズドなスクールであり、海外より研究者6名、大学院生31名、および9名の国内大学院生を招へいしました。座長はEconometric Society会長経験者のAriel Rubinstein教授が務め、ノーベル賞候補者として話題を集めている日本人研究者、清滝信宏プリンストン大学教授も2回にわたってレクチャーを行いました。上記2名に加え、In-Koo Cho、Matthew O. Jackson、Vijay Krishna、Debraj Rayの計6名の研究者より世界最高峰の業績に関する報告がなされたほか、大学院生による現在の経済学の最先端の研究が披露されました。

客員研究者

当センターには、研究者を受け入れるための複数のポジションがあり、年間を通して多彩な研究者にお越し頂いております。滞在中は教員との共同研究やワークショップでの発表を行って頂きますが、教員や他の客員研究者とコミュニケーションを取る機会も多く、意見交換の場所としても機能しております。今回は、2015年度お越し頂いた3名の方に、滞在時の研究についてをお聞きしました。(所属・身分は在職当時のもの)

客員教授

Department of Political Economy, University of Fribourg

Thierry Madiés

(2015.6.15-7.15)



まず最初に林正義教授、CIRJE 室員の皆様のもてなしと、滞在期間中の素晴らしい研究環境とに心より感謝申し上げます。今回の滞在は、発表と、経済学部教員の皆様からの論文に対する非常に有益なアドバイスを獲得する機会、そして、学部生・大学院生に教えるだけでなく、非常に興味深い研究セミナーに参加する機会となりました。滞在時は、研究を3つの方向へ更に進めることができました。第1に、非対称なペイオフがある2段階調整ゲームにおいて、コミュニケーションがプレイヤーの行動に与えるインパクトに関する、実験に基づいた共同研究を完成させることができました。そこでは、プレイヤーは交代戦略を採用することで対立を解消するようになり、その結果、時間を通じて協調が持続され、かつ、非対称なペイオフに帰因する不均衡が緩和されるという結果を導き出しました。この論文は Economics Inquiry 誌に掲載されることになっています。第2は、独自に設定した複数の公共財供給ゲームを用いて、財政上の分権化と地域内に存在する異なった集団が、分離独立の確率に与える影響に関する実験に基づく共同研究です。この研究はほぼ完了しており、その主な研究結果として、異なった地域内集団の独自性がきわだっている場合、地方分権の度合いが高いほど分離独立の確率が小さくなる、という命題を導出しています。この論文は公共経済のトップジャーナルに投稿予定です。第3に、CIRJE での滞在中に、林教授との共同研究の研究費の為に Swiss National Foundation へ出願する準備もいたしました。この出願した共同研究の一部では日本の地方財政制度を含む財政制度の国際比較研究も計画しています。

客員准教授

Department of Political Science, Purdue University

Daniel P. Aldrich

(2015.5.10-8.10)



澤田康幸教授とともに、2011年の東日本大震災、津波、そして原発事故からの生存と、そこからの回復をより理解するための研究を行っています。澤田教授との直近のプロジェクトでは、災害後の市場メカニズム、国策と地域コミュニティーネットワークの役割を考察しました。このプロジェクトでは既に、Social Science & Medicine 誌に、津波から生き残った東北の人々が助かった要因について調査した記事を発表しました。そして現在、我々は、福島原子力発電所周辺の、自宅からの立ち退きを強いられた方のメンタルヘルスの問題、特に不安、心配、落ち込みについてを研究しています。我々は、社会資本一人々と友人、近隣、家族との結びつきが不安の軽減を助け、メンタルヘルスを向上させることを発見しました。また、大船渡市の「居場所ハウス」プログラムのような、コミュニティーセンターを通じた社会資本の計画的な創出について検討するプロジェクトにも取り組みました。東京での私の滞在を可能にし、この回復力に関する研究を実施するために手助けして下さった澤田教授や CIRJE スタッフの皆さんに大変感謝申し上げます。

関西大学

稲葉 大

(2015.4.1-2016.3.31)



2015年4月から1年間の間、CIRJEにて研究活動を行う機会を頂き、先生方やスタッフの皆様にお礼申し上げます。CIRJEにおける研究活動は、主として以下の二つになります。一つ目は、合理的バブルと経済政策との関係を明らかにすることです。その成果の一つであるバブル崩壊に対する救済策が経済厚生に与える影響については、“Asset Bubbles and Bailouts” (平野智裕氏・柳川範之氏との共著) が2015年12月に Journal of Monetary Economics に掲載されました。二つ目は、日本の県民経済計算のデータに基づいた、県および地方における景気循環と経済成長に関する分析です。地域間の資源配分に関する misallocation に注目して分析を行い、特に地域間のリスク・シェアリングと金融市場の歪みに密接な関係があることを示しました。研究の成果は、“Regional Business Cycle and Growth Features of Japan” として公表させて頂く予定です。また、CIRJE 滞在期間中には、大学院生向けに非公式に講義を行う機会があり、大学院生とのやり取りによって自身の研究領域の brush up に繋がりました。在任中のセミナー等で先生方・大学院生から、研究について多くの貴重なコメント・アドバイスを頂きました。重ねてお礼申し上げます。

CIRJE ディスカッションペーパーシリーズ

http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/research/03research02dp_j.html

当センターでは2つのディスカッションペーパーシリーズ（Jシリーズ：日本語、Fシリーズ：外国語）を刊行しており、2015年4月から2015年3月は、Jシリーズ4件、Fシリーズ37件が刊行されました。発行されたディスカッションペーパーは上記のホームページからダウンロードすることも可能です。

客員スタッフ

当センターの重要な役割の一つに、海外からの研究者の受入と研究交流促進があります。国内外の優秀な研究者を様々な分野からお迎えし、研究活動を行っております。下記のリストは2015年度に来訪された客員スタッフの一部です（所属・身分は滞在当時のもの）。

客員教授

- Kar-yiu Wong (2015.4.1 - 4.30)
Department of Economics, University of Washington, USA
- Thierry Madiés (2015.6.15 - 7.15)
Department of Political Economy, University of Fribourg,

客員准教授

- 稲葉 大 (2015.4.1 - 2016.3.31)
関西大学経済学部, 日本
- Daniel Aldrich (2015.5.10 - 8.10)
Department of Political Science, Purdue University, USA

短期客員研究者

- Kar-yiu Wong (2015.4.13 - 4.18) * 野村財団・奨学研究員
Department of Economics, University of Washington, USA
- 笠原博幸 (2015.5.11 - 7.23) * 野村財団・客員研究員
Department of Economics, The University of British Columbia, Canada

- Sarath Sanga (2015.6.1 - 6.30) * 野村財団・奨学研究員
Columbia Law School, Columbia University, USA
- James J McAndrews (2015.6.1)
Federal Reserve Bank of New York, USA
- Philippe Martin (2015.6.12)
Department of Economics, Sciences Po, France
- Johan Llull (2015.7.12 - 7.19) * 野村財団・客員研究員
Universitat Autònoma de Barcelona, Spain
- Esther Duflo (2015.8.3 - 8.4)
Massachusetts Institute of Technology, USA
- Martin Peitz (2015.10.6 - 10.21) * 野村財団・奨学研究員
Department of Economics, University of Mannheim, Germany
- Ming-Tien Tsai (2015.12.13 - 12.19)
Institute of Statistical Science, Academia Sinica, Taiwan
- Hans Holter (2016.3.18 - 3.28) * 野村財団・奨学研究員
Department of Economics, University of Oslo, Norway

スタッフ

教授



市村英彦



澤田康幸



田淵隆俊



福田慎一

下津克己
(センター長)



顧問

- 翁 邦雄 (京都大学公共政策大学院教授)
- 加藤淳子 (東京大学法学部・大学院法学政治学研究科教授)
- 高田 創 (みずほ総合研究所株式会社常務執行役員)
- 西村和雄 (神戸大学社会システムイノベーションセンター特命教授)
- 浜田宏一 (エール大学名誉教授、内閣官房参与)

運営委員会

運営委員長

下津克己 (センター長)

運営委員

谷本雅之・福田慎一・渡辺 努

CIRJE Newsletter No.24

2016年4月

東京大学大学院経済学研究科附属

日本経済国際共同研究センター

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

tel +81-3-5841-5644 fax +81-3-5841-8294

<http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/indexj.html>